

1 表彰

(1) 院内表彰（平成24年1月4日）

【功績表彰】

- ・団体表彰
- ① 東日本大震災支援チーム
 - ①-1 さいたまスーパーアリーナ支援チーム
(理由：さいたまスーパーアリーナにおいて避難者支援に尽力した)
 - ①-2 気仙沼市立病院支援チーム
(理由：気仙沼市立病院における救援活動で被災地支援に尽力した)
 - ①-3 心理士医療支援チーム
(理由：被災地域の病院における心理支援で被災者支援に尽力した)
 - ①-4 後方支援チーム
(理由：被災地域への後方支援および夏季の節電対策に尽力した)
 - ② 手術室
(理由：過去最多水準の手術件数と急患等への迅速な対応により病院運営に貢献した)

【感謝状贈呈】

- ① びすけっと（血液・腫瘍科 親の会）
- ② 株式会社アウル



(2) 知事表彰（平成24年1月13日）

【永年勤続表彰】

- ・30年表彰
- | | | | |
|---------|--------|---------|--------|
| ①中村 譲 | ②松田 幸広 | ③鈴木 みどり | ④江良 英人 |
| ⑤黒田 京子 | ⑥田代 弘子 | ⑦高橋 孝子 | ⑧菊池 秀幸 |
| ⑨上野 小夜子 | ⑩天笠 隆之 | | |
- ・20年表彰
- | | | | |
|----------|--------|--------|--------|
| ①望月 弘 | ②大橋 博文 | ③清水 正樹 | ④岡田 洋一 |
| ⑤白子 淑江 | ⑥藤田 茂 | ⑦田邊 尚子 | ⑧井出 薫 |
| ⑨小久保 知寿子 | ⑩市川 圭子 | ⑪菅 真美子 | ⑫橋本 淳子 |
| ⑬伊藤 和子 | ⑭桐谷 紀江 | | |
- 鴨田 喜代子（退職者表彰）

2 ボランティア活動

ボランティア名	開始年	活動内容	活動日・活動場所
カリヨン文庫	1986年	図書の貸し出し 読み聞かせ、お話し	1 A、1 B、2 B、2 C、3 A、3 C 活動内容、訪問病棟により1回/週 2回/月と活動回数が異なる。
トライアングル	1993年	外来フロアの壁に貼り絵を展示	季節ごとの張替: 外来待合廊下2か所
外来ボランティア	1997年	患者、家族の案内等	月～金曜日: 外来
難聴ベビー外来 ボランティア	2000年	難聴ベビー外来での保育	1回/月: 保発棟
じゃんけんぽん	2001年	入院患児の遊びの相手	第1・3火曜日: 3 A
写真展示	2005年	風景写真の展示	季節毎の入替: 外来廊下
影絵 あいあい	2005年	影絵の上演 (お話し影絵、歌の影絵)	1回/年: 会議室
人形劇 あゆ	2007年	人形劇の公演 (人形劇、手遊びなど)	1回/年: 会議室
天文写真展示	2008年	天体写真の展示 こどもたちからの質問に回答	年数回: 保発棟廊下

3 「養護の会」各種イベント

8月1日～8日

「七夕飾り」

8月11日

「お化け屋敷」

職員がおばけに扮し、各セクション有志の協力で、入院患者を対象とした『お化け屋敷』を行い、約100名が参加した。

8月18日

「人形劇」

NPO法人こども文化ステーションの企画で「人形劇団ののはな」による人形劇の上演。約70名が参加し好評であった。

9月12日

「ストリンググラフィコンサート」

NPO法人こども文化ステーションの企画でストリンググラフィ(大きな糸電話のようなオリジナル楽器)を用いたコンサートの開催。約70名が参加し好評であった。

9月24日

「影絵」

ボランティア「あいあい」による企画で、約30名が参加し好評であった。

12月13日

「サンタクロース」

NPO法人難病のこどもネットワークの協力により、サンタクロースが入院患者一人ひとりにプレゼントを配布し、たいへん喜ばれた。

11月末～12月24日

「クリスマスツリーの飾り作り、飾り付け」

患児、看護師、保育士でクリスマスツリーの飾り作り、飾り付けを行った。

11月19日～12月27日

「クリスマスイルミネーション」

当センターの中庭、プレイガーデンにイルミネーションの装飾をした。中庭に作った大きなツリーやトナカイ、サンタクロースのモニュメントも好評であった。

これらの事業は、長期入院などで外に出ることのできない子ども達の生活に潤いを与えたいと、医療スタッフや職員からなる「養護の会」が企画協力したものである。

4 院内保育

(1) こども広場

院内保育室は、平成23年度で11年目を迎え、院内案内や以前の利用者からの紹介などで入院されているご家族への認知度が毎年高まり、新規利用の方が増えている。

利用対象者は、当センターに入院している患者の兄弟で2歳6ヶ月～6歳までの面会家族のお子さんである。

また、対象外保育は1歳～2歳5か月以下のお子さん・小学生・外来（病棟から対象外依頼書を発行し病院長の了承があった場合のみ保育を行っている。

平成23年度の7月から保育時間が増え、午後1時から保育室が利用できるようになった。

保育内容は異年齢保育のため、プラレール・おもちゃごと・お絵かきなど遊びが中心の保育だが、少しづつ遊具も増え遊びが広がっている。

院内保育室は日々違うお子さんが利用することや当日にキャンセルが入る等の問題により、当日にならないと利用者が確定せず一貫した保育は難しい状況にあるが、クリスマス会は年に1度の行事としていちづけ、毎年手作りおもちゃをプレゼントし、とても喜んでもらっている。

また、利用人数や年齢により、可能な時は季節に合った制作なども楽しんでいる。

利用者の推移

年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
人数	1,375人	1,259人	1,132人	1,350人	1,316人

平成23年度利用者の月齢構成

年齢	人数	構成率
2歳6ヶ月未満	279人	21.2%
2歳6ヶ月	106	8.1
3歳	392	29.8
4歳	139	10.6
5歳	145	11.0
6歳	124	9.4
就学児	23	1.7
外来	108	8.2
計	1,316	100

(2) かりよん保育園

当センターの医師や看護師等の定着と確保を図るため、旧病院長公舎を改築し、病院職員の乳幼児を預かる院内保育施設を、平成21年4月1日にオープンした。（慣らし保育は3月から開始）

保育対象の子どもは産後休暇・育児休業取得後の0歳児から小学校就学前まで、保育時間は午前8時から午後6時（前後に各1時間の延長あり）まで、定員は12名（2階部分を使用した場合24名）保育園の運営は民間業者に委託で行っている。

平成23年度は、年度当初の入所者12名であったが、年度末には22名へと増加し、1年間で医師3名、看護師19名及びコメディカル職員1名の計23名が利用した。

また、規程を改正して平成23年4月1日から週2回（月、木）の夜間保育を開始した。

埼玉県立 小児医療センター 歌

さんぼく たけし 作詞
 巖 のぼる 作曲
 川越 徳子 編曲

The musical score is written for voice and piano. It consists of seven systems of staves. The first system shows the piano introduction. The second system begins the vocal melody with the lyrics: 'くさのふしをむさしのにやめなさいのらとくどらんへあいえ'. The third system continues with lyrics: 'のいりうとさきげんつとあしまのいりうをひをとしすわれ'. The fourth system has lyrics: 'ら - しゅうに センター - ここにありしゅう'. The fifth system has lyrics: 'に - いりう センター - ここにありましり'. The score includes dynamic markings like 'mf' and 'f', and performance instructions like '1.' and '2.' for repeat sections.

埼玉県立 小児医療センター 歌

さんぼくたけし

若草萌える 武蔵野に
 病める幼き 子どもらへ
 愛の医療を 捧げんと
 集り参じて 灯をともす
 われら 小児センター ここにあり
 小児医療センター ここにあり

真白の富士を 仰ぎ見る
 幼き生命を 救わんと
 燃える希望と 情熱で
 明日の医療を いま築かん
 われら 小児センター ここにあり
 小児医療センター ここにあり

(平成2年4月 職員有志により作詩、作曲された)